

東海大学社会教育センターだより

# 海のはくぶつかん



オオウミウマ

**Vol.42** No.1

2012.1 冬号

**C O N T E N T S**

- |                    |                                     |
|--------------------|-------------------------------------|
| <b>特集</b>          | ・「2012年新春 干支の魚」海にすむ『辰』 長谷部阿由美 2     |
| <b>話題</b>          | ・～年賀状水槽～これで完成年賀状 水槽内から明けまして！ 青木聡史 4 |
| <b>話題</b>          | ・マイワシの搬入 _____ 鈴木宏易 5               |
| <b>話題</b>          | ・自然観察フィールドワーク _____ 石橋忠信 6          |
| <b>話題</b>          | ・日本の深海魚に新メンバー！ _____ 富山晋一 7         |
| <b>INFORMATION</b> | _____ 8                             |

## 「2012年新春 干支の魚」 海にすむ『辰』

長谷部阿由美  
Ayumi HASEBE

明けましておめでとうございます。新年を迎えるこの時期は、いつもと違う気持ちになりますね。今年は特に、様々な思いが皆さんの胸の中を駆け巡っていることと思います。当博物館は皆さんからの応援や、当館を囲む広大な自然からパワーをもらっています。少しでもそのお返しができるよう、展示や活動を通して皆さんに届けたいと思います。本年もどうぞよろしくお願い致します。

さて、2012年初仕事は毎年恒例！干支の魚『海にすむ辰』のお披露目です。この原稿を書いている11月には既に準備が始まっており、新春の門出を飾る展示として、身が引き締まる思いで取り組んでいます。今回は特にその気持ちが高ぶっています。なぜなら、日本を含む東洋では「竜」または「龍」、西洋では「ドラゴン」として知られる、伝説の生物が主役だからです。伝説や物語が大好きな人はワクワクしてしまうのではないのでしょうか？元々干支というのは年や月、時間などを数える数詞であり、世間に広めるためになじみのある動物をあてはめた…と言われていました。その中でなぜか唯一実在しない生物を例えた「辰」、皆さんはどんな姿を思い浮かべますか？

### 【海にすむ『タツ』】

～魚類編～

#### ◎竜の落とし子（たつのおとしご）の仲間【和名】

この展示を考えたとき、最初に思い浮かんだ海の『タツ』は、タツノオトシゴの仲間です。私だけではなく水族館で働くスタッフのほとんどは、真っ先に思いつくのではないのでしょうか。「タツノオトシゴ」「サンゴタツ」「ハナタツ」など日本近海では7種類が確認されています。硬い骨板に覆われボコボコしている体、スポイトのような口、本当に魚？と聞き



サンゴタツ

たくなるほど変わった姿をしています。よく見るとちゃんと“ヒレ”があり、ほぼ直立した姿勢で泳ぎますが、あまり力が無く苦手そうです。細い尾を使って海藻などに巻きついている姿をよく見かけます。特技(?)は隠れること。体の突起や色は海藻や岩に紛れ込み、海の中ではよく眼を凝らさないと中々見つけることができません。もう一つ変わっていることと言えば、オスが子どもを産み出すことでしょう。メスはオスのお腹の部分にある育児囊いくじのうの中に卵を産みつけます。しばらくすると、とても小さな赤ちゃんが親魚と同じ立派な『タツ』の姿でオスの育児囊から生まれ出てきます。奇妙な姿をしたタツノオトシゴの仲間、昔の人は“海に産み落とされた竜の子”だと想像したのでしょうか。おもわず納得！の姿です。

#### ◎海龍（ようじうお）の仲間【中国名】

タツノオトシゴ類の近縁にヨウジウオの仲間がいます。この仲間は細長い体形をしています。タツノオトシゴ類とは姿かたちが違うので、兄弟ではなく「タツノイトコ（竜乃従兄弟）」「タツノハトコ」という種がいます。他には「オイランヨウジ」「トゲヨウジ」「ヒバシヨウジ」など日本近海では47種類が確認されています。他の魚の体についた寄生虫を掃除する“クリーニング”の習性を持つ種、卵をオスのお腹の中ではなく外側につけて守る種など、暮らし方は様々です。



オイランヨウジ

その他、海外にはリーフィーシードラゴン (Leafy sea dragon) ・ウィーディーシードラゴン (Weedy sea dragon) というヨウジウオの仲間がいます。体の形はタツノオトシゴの仲間に似ていて、海藻をつけているかのような皮弁がいくつもあります。恐らく海外の人も奇抜な体が『ドラゴン』のように見えたのでしょうか。



コウワンテグリ



タツノオトシゴの仲間

### ◎Dragonets (ネズッポの仲間)【英名】

Dragonetとは、小さい竜・竜の子という意味です。日本ではネズミに似ているから名付けられたのではないかと思われる、ネズッポの仲間を指します。体のサイズが約25cmになる「ネズミゴチ」や、約10cmにしかならない「ニシキテグリ」「コウワンテグリ」など日本近海では38種類が確認されています。ほとんどの種は体が平べったく、砂底や岩面などをすべるように泳いでいます。日本ではネズミ、海外の人は『ドラゴン』の子ども。皆さんはどちらに似ていると思われますか？



ニシキテグリ

ならない「ニシキテグリ」「コウワンテグリ」など日本近海では38種類が確認されています。ほとんどの種は体が平べったく、砂底や岩面などをすべるように泳いでいます。日本ではネズミ、海外の人は『ドラゴン』の子ども。皆さんはどちらに似ていると思われますか？

### ◎Dragon Moray (とらうつぼ)【英名】

Morayとはウツボのことです。日本では体の色と模様がトラに似ているのでトラウツボと呼ばれています。見方を変えると『ドラゴン』似？ウツボの仲間は体が長く多くが鋭い歯を持っています。さらに「トラウツボ」は鼻が飛び出しており、ツノのように見えます。しかし、ウツボ類の多くはその外見とは反対に性格は臆病です。水槽越しに見る分には可愛いのですが、さすが『ドラゴン』と呼ばれるほどの風貌！海で出会うとギョッとしてしまいます。



トラウツボ

### ～無脊椎動物編～

### ◎青竜蝦 (しゃこ) の仲間【和名】



しゃこ

しゃこの仲間は「蝦蛄」と表記されることが多いですが、体色や尾部が青竜(伝説上の神獣)を思わせると



トラフシャコ

ころから「青竜蝦」とも書くそうです。食用として一般的によく知られる「シャコ」の他、カラフルな色をした「モンハナシャコ」、全長40cmを超えることもある世界最大の「トラフシャコ」などがいます。大きな鎌のような捕脚を持ち、貝殻を叩き割ることができるほどパンチ力の強い種もいます。

### ◎竜蝦 (いせえび)【当て字】

おめでたい席で振舞われる「伊勢海老」。当て字で「竜蝦」とも書くそうです。「イセエビ」の仲間には少しカラフルな色をしている「ゴシキエビ」、体のサイズが約55cmにもなる「ニシキエビ」などがいます。長い触角に硬い甲羅を持ち、夜になると餌を求めて活動するイセエビ類は、先に挙げたシャコ類より竜に似ている気がします。



いせえび

その他にも深海に生息する『ワニトカゲギスの仲間 (Dragon Fish)』やサンゴ礁に生息する『オビテンスモドキ (Dragon Wrasse)』などがいます。ところで皆さんは東洋の「竜 (龍)」と西洋の「ドラゴン」では外見や印象が少し違う、ということをご存知ですか？今回の展示では「竜」と「ドラゴン」に分けて展示し、種名の由来先であるお国柄も感じてもらおうと思っています。威厳ある神獣として、古くから伝えられている生物の名前を授かった海の『タツ』を、ぜひ一度ご覧ください。そして『タツ』と呼ぶにふさわしいかご判定ください。

2012年が皆様にとってよき年でありませう、心よりお祈り申し上げます。

# ～年賀状水槽～

## これで完成年賀状 水槽内から明けまして！

青木 聡史

Satoshi AOKI

新年の挨拶といえば『あけましておめでとうございます』ですね。今年も身近な人に直接会った時、挨拶を交わした方も多いのではないのでしょうか。しかし、お世話になっているけれども、あまり会う機会のない遠方の人も多くいらっしゃると思います。そんな人に新年の挨拶をするために、日本には年賀状をおくる習慣があります。

奈良時代ごろから「年始回り」という新年の挨拶に人を訪ねる行事があり、その後、挨拶に行けない遠方の人に対して文書で挨拶を行うようになったことが年賀状の起源とされています。

当館では、年末年始の展示としてこの年賀状に注目し、2010年より『きらきら☆ラグーン』エリア内で『年賀状水槽』の展示を始めました。展示期間は年賀状の受付が始まる12月初旬から翌年1月初旬までです。

水槽内に干支にちなんだ生き物を展示し、年賀状を模した外枠をつければ『年賀状水槽』の完成です(写真1)！



写真1



写真2

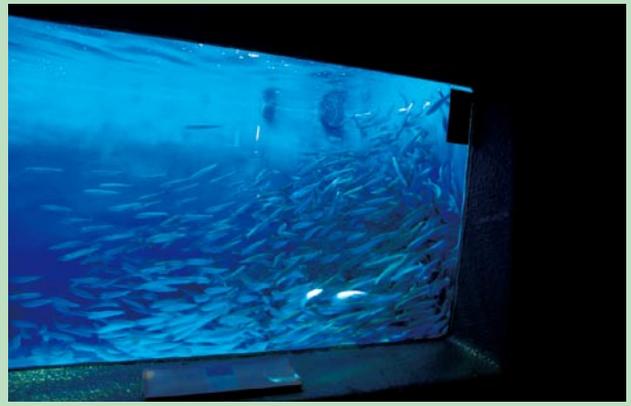
外枠ごと水槽を撮影し、その写真をはがきにプリントアウトすることで手軽に年賀状を作ることができます。しかし、それだけではおもしろくありません。実はこの水槽には透明なトンネルが設置されているので、干支の魚と一緒にまるで水中にいるような皆さんの姿を撮影できるようになっています(写真2)。

昨年の干支は『卯』つまりウサギでした。そこで、年賀状水槽には顔がウサギに似ていることからラビット・フィッシュ(Rabbit fish)と呼ばれるアイゴの仲間『ヒフキアイゴ』を展示しました。展示してから早速、海にすむウサギと共に写真を撮っている方が数多くいらっしゃいました。

さて、2012年の挨拶にも当館の年賀状水槽を役立ててもらおうと、2011年12月より海にすむ『辰』の展示を始めました。出す人も、もらう人も「おもしろいな～」と思えるような年賀状ができることを願って展示を作っております。新しい年の始まりに、普段は疎遠なあなたの方にも年賀状で近況報告してみましょ！新年の挨拶を携帯電話のメールで済ませてしまう方も、年賀状水槽の写真を添付すれば一味違ったメールになりますよ。

# マイワシの搬入

鈴木 宏易  
Hiroyasu SUZUKI



2011年9月21日、静岡県は台風15号に直撃され、多くの被害が発生しました。当館でも21日は臨時に休館して台風に備えていました。当館のある三保地区には風を防ぐための松が数多く植えられていて、まわりの松の木はまるでススキが揺れるように風にあおられていました。夜になって台風が過ぎ去り、風雨もおさまったため待機していた職員もそれぞれ帰宅して行きました。

それが起きたのは、翌22日の午前3時頃でした。いきなり停電が起きたのです。真夜中の事で対応が遅れたこともあり、酸欠に弱いマイワシが全滅してしまいました。その後の調査によると、台風の強風によって折れた松の木が落ち、三保地区に電気を送っている電線を切ってしまったのが原因との事でした。

死んだマイワシを調べていくと、中にはかなり大きく成長した個体がありました。最も古いマイワシは12年前に搬入されているので、もしかしたら12年間水槽で泳ぎ続けていたのかもしれない。

マイワシの展示中は水槽の壁などの本格的な補修を行う事ができなかったのですが、これを機に水槽の整備を実施し、10月14日と21日の2回に分けて、約1500匹のマイワシを収容して展示を再開しています。

死んでしまったマイワシたちには気の毒なのですが、皆さんにはきれいな水槽で泳ぐ元気なマイワシをご覧いただく事ができるようになりました。

ここでは、そのマイワシ搬入の様子についてご紹介したいと思います。

1

マイワシを積んだ魚類輸送専用のトラックです。荷台の窓からは、中のマイワシを見る事ができます。これからこのマイワシたちを水槽へ運ぶ作業が始まります。



2

マイワシが入ったバケツを受け取り、展示する水槽へと向かいます。人海戦術でマイワシを運んでいきます。



3

もうすぐ水槽ですが、バケツを揺らさないようにしながらダッシュしていきます。



4

運ばれたバケツを水槽の中にくっきり沈め、マイワシをそっと水槽に放します。



作業を展示場から見たところです。マイワシがバケツからゆっくり出てくるのがわかります。



2から4までの作業を何度も繰り返し、全てのマイワシが水槽におさまりました。タイトル横の写真は終了直後の水槽ですが、まだおびえているため水槽のすみにかたまっています。今ではすっかり落ちついて、皆さんの前をゆっくりと泳ぐ姿がご覧いただけます。

# 自然観察フィールドワーク

石橋 忠信  
Tadanobu ISHIBASHI

2011年の10月に自然史博物館の自然観察フィールドワークが実施されました。「三保の魚」と「久能山の化石」の2テーマが実施され、参加された方たちは、楽しく充実した一日を過ごされていました。

## ■三保の魚 [10月16日]

博物館の近くにある三保の海には、どんな魚がいるのかご存知ですか？これを知るためには、魚の種類を調べてみる必要があります。この回のフィールドワークは、皆さんに良く知られている地引網をすることで、三保にいる魚の種類を調べる活動になります。

私たち職員にとっては、毎年のサマースクールやフィールドワークで慣れている地引網ですが、参加された方たちの中には初めての方も多く、三保の内海での地引網はほぼ全員が初めての体験だったようです。

漁師さんたちが船から網を入れるのを待って、網を引き始めます。遠くに富士山を見ながら、みんなで頑張る網を引きました。網

から取り出した魚たちは、バケツを使ってトラックに運び、生かしたまま博物館に持ち帰ります。参加者も博物館にもどり、休憩を兼ねてお昼休みです。

食事も終わり午後になると、仮設のプールに放してある魚たちを観察する時間です。学芸員がプールの中に入り、見やすいように魚をプラスチックの水槽に移して説明しました。参加者の中には、持ってき

たデジカメで魚たちを撮影しているお子さんや、熱心にメモを取るお父さんなどいて、自分たちで採集した三保の魚をそれぞれ楽しそうに確認していました。



漁師さんたちが船から網を入れるのを待って、網を引き始めます。遠くに富士山を見ながら、みんなで頑張る網を引きました。網



から取り出した魚たちは、バケツを使ってトラックに運び、生かしたまま博物館に持ち帰ります。参加者も博物館にもどり、休憩を兼ねてお昼休みです。

食事も終わり午後になると、仮設のプールに放してある魚たちを観察する時間です。学芸員がプールの中に入り、見やすいように魚をプラスチックの水槽に移して説明しました。参加者の中には、持ってき

たデジカメで魚たちを撮影している

お子さんや、熱心にメモを取るお父さんなどいて、自分たちで採集した三保の魚をそれぞれ楽しそうに確認していました。



## ■久能山の化石 [10月23日]



日本平の久能山からは約20万年前の化石が見つかります。その化石をもとに、かつての久能山がどんな場所だったのか、実際に確認していただくのが、この回の目的になります。毎年実施していた「久能山の化石」ですが、昨年は9月に到来した台風15号の影響で、発掘場所へ続く道に木や土が崩れ落ち、横を登って迂回しなければならなかったりと、参加された方たちにはちょっと大変な行程になりました。



化石が見られる露頭も、足場になっていた平らな場所に、台風で土砂が落ちて傾斜地になっていました。更に前日の雨で滑りやすく、皆さん苦労しながらもハンマーを振っていました。

それでもしばらくすると、あちこちから「あった!」、「見付けた!」という声が上がりがち、いろいろな形の化石が姿を現わしてきます。「化石はまわりの土ごと取って下さい。」という学芸員の注意を聞きながら、皆さん方は化石採集を楽しまれました。



# 日本の深海魚に新メンバー！

富山 晋一  
Shinichi TOMIYAMA

皆さんは、これまでに日本で何種類の魚が見つまっているかご存知ですか？2000年に出版された「日本産魚類検索 全種の同定 第二版」によれば、当時すでに3863種が知られていました。しかし、その後も次々に新種や日本初記録種が報告され、現在では4100種を超えています。ここでは、日本における分布が最近報告された魚の中から、アシロ科フクメンイタチウオ属の2種についてご紹介します。

フクメンイタチウオ属の仲間は、その名の通り、頭が覆面のようなブヨブヨした皮膚に覆われているのが特徴で、おもに水深1500~5000mの海底付近にすんでいます。本属には13種が知られ、以前は、フクメンイタチウオとソコフクメンイタチウオのみが日本から記録されていました。

新たに日本産フクメンイタチウオ属に加わったのは、ナンヨウフクメンイタチウオ *Bassozetus glutinosus* (写真1A) とイシフクメンイタチウオ *Bassozetus robustus* (写真1B) という種類です。ナンヨウフクメンイタチウオは1890年にインド洋のベンガル湾から新種報告された種類で、インド・太平洋の水深約1300~3500mに生息しています。一方、イシフクメンイタチウオは1913年にフィリピンのパラワン海峡から新種報告された種類で、インド・太平洋と西部大西洋の水深約1100~4400mに生息しています。両種の形態はよく似ていますが、扁平石（炭酸カルシウムを主成分とする石。内耳に形成され平衡感覚などに関わる）の形が異なることなどで識別されます。



写真1 採集直後のナンヨウフクメンイタチウオ (A) と  
エタノール保存後のイシフクメンイタチウオ (B)

長らく外国産と考えられていた両種の標本が日本で最初に発見されたのは、東海大学海洋学部水産学科が実施した海洋実習中のことです。ナンヨウフクメンイタチウオは2007年に2標本が、イシフクメンイタチウオは2009年に1標本が、いずれも駿河湾から採集されました（すべて当館所蔵）。その後、多数の本属未同定標本（種類が精査されないまま保存されている標本）の調査によって、2005年に琉球海溝で採集された両種の各1標本（国立科学博物館所蔵）が新たに発見されました。これらの標本に基づき、両種が日本産魚類として報告されたのは2011年のことです。

「ナンヨウフクメンイタチウオ」と「イシフクメンイタチウオ」という標準和名は、*B. glutinosus*と*B. robustus*が日本から報告された際に提唱されました。標準和名の由来は、前種ではおもな分布域が熱帯~亜熱帯であること、後種では同属他種に比べてやや大きな扁平石をもつことにあります。

※ 2012年1月1日から4月8日までイシフクメンイタチウオを特別展示しています。（ナンヨウフクメンイタチウオの展示は終了しました）

## 参考文献

- 高見宗広・富山晋一・福井篤. 2011. 日本初記録の深海性アシロ科魚類イシフクメンイタチウオ（新称）*Bassozetus robustus*. 魚類学雑誌58: 177-180.
- 富山晋一・高見宗広・福井篤. 2011. 日本初記録の深海性アシロ科魚類ナンヨウフクメンイタチウオ（新称）*Bassozetus glutinosus*. 魚類学雑誌58: 93-97.
- 中坊徹次（編）. 2000. 日本産魚類検索全種の同定第二版. 東海大学出版会, 東京. lvi+1748 pp.
- Nielsen, J. G. and N. R. Merrett. 2000. Revision of the cosmopolitan deep-sea genus *Bassozetus* (Pisces: Ophidiidae) with two new species. *Galathea Rep.*, 18: 7-56, 1 pl.

# 海洋科学博物館・自然史博物館



## 博物館 情報

### 2012年 お正月イベント

#### ●東海大学海洋科学博物館

### 「干支の魚 一辰一」

1月1日(日)～9日(月)まで!

2012年の干支一辰一にちなみ、『干支の魚』の展示を行います。  
名前に竜や dragon が入っている生物をご紹介します。  
おめでたい新年の展示を、是非ご覧下さい。



お竜の落とし子の仲間(オオウミウマ)



Dragon Moray (トラウツボ)



青竜蝦の仲間(トラフシャコ)

#### ●東海大学自然史博物館

#### ・サメの歯実物化石 発掘体験

1月1日(日)～5日(木) 一つ¥500円  
一日限定100個  
開催時間10:00～12:00、13:00～15:00



#### ★魚と恐竜の2012カレンダープレゼント

1月1日(日)～5(木)まで!

両館にて先着、各100名様にオリジナルカレンダーをプレゼント致します。

INFORMATIONについての問い合わせ：TEL.054-334-2385

ホームページ <http://www.muse-tokai.jp/>